

カナダ北西海岸先住民に関連した博物館の概況

著者	齋藤 玲子
雑誌名	北海道立北方民族博物館研究紀要
巻	15
ページ	85-94
発行年	2006-03-28
URL	http://hdl.handle.net/10502/5607

研究ノート

カナダ北西海岸先住民に関連した博物館の概況

齋藤 玲子*

A Report on the Museums for
the Northwest Coast Peoples Culture in Canada

Reiko SAITO

This is a report on the survey of the museum exhibitions and activities which present Canadian Northwest Coast First Nations Culture in 2002 and 2004.

1. はじめに

筆者は2002年度から2005年度まで「カナダにおける先住民のメディアの活用とその社会・文化的影響」(日本学術振興会科学研究費基盤研究AB・研究代表者スチュアート ヘンリ)の研究協力者として、主にブリティッシュ・コロンビア州(以下BC州)の北西海岸に居住する先住民の文化に関連した博物館の調査を行なった。研究全体は、カナダ先住民によるメディア活用の現状およびその先住民社会への影響について調査を行い、グローバル化が進展する世界の中の先住民にとって、出版や映像、情報通信などの各種のメディアがもつ社会・文化・政治・経済的意味を明らかにすることを目的としている。そして博物館もメディアの一つととらえている。博物館は、実物資料(民具等)のみならず、写真や文書など付随するさまざまな資料を所蔵し保管するとともに、展示や出版物をはじめ近年はインターネット等を通じて、ひろく公開している。多次元で量的にも多くの情報を所有し、それを多数の人に伝える役割をもっていることから、十分にメディア(情報媒体)に値するものと言ってよいだろう。(本多 2005: 211-223)

カナダにおける博物館・美術館の来館者数は、カナダ統計局によると2002年で27,840,000人。これには海外からの旅行者も含まれているが、カナダ国民29,634,000人

* 北海道立北方民族博物館主任学芸員(Hokkaido Museum of Northern Peoples)

キーワード 博物館、北西海岸、先住民、カナダ
Key Words Museum, Northwest Coast, First Nations, Canada

(2001年)の9割を超す数字である。3年前の1999年に比べて5%、1993年に比べると1割の伸び率であり、カナダでは博物館が市民に身近な存在となっていることがうかがえる数字である(カナダ統計局ウェブサイト)。

カナダは多文化主義を標榜しており、先住民文化の振興も政策的に行なわれてきた。博物館活動に対しても時代に即した施策を打ち出し、先進的な取り組みを進めている(溝上 2003:233-238)。日本の博物館が参考にできる点も多いと思われる。

本稿では、筆者が行なった調査のうち、カナダ国内とくにBC州とオタワ、トロントといった首都圏における先住民文化を対象とする博物館(類似施設を含む)の概況を報告する。当初、研究グループの調査目標として、カナダ国内にある先住民が運営する博物館等のすべてを把握することを掲げていたが、これは数の上でもかなり困難であることが予想され、北西海岸インディアンと総称されてきた人びとに絞って調査することとした。

また、筆者の都合上、毎年の現地調査ができなかったことおよび、研究成果を日本の博物館におけるアイヌ民族との関係への応用に資するため、インターネットや文献による調査を併用しつつ、国内でのアイヌ文化関係機関・博物館での調査も行なってきたことを付記しておく。

2. 先住民と博物館の関係についての概況

カナダではここ20年ほどの間に、先住民と博物館の協力・協定関係は大きく発展してきている。1988年にグレンボウ博物館(Glenbow Museum)で行なわれた特別展「魂はうたうーカナダ先住民の芸術的伝統(The Spirit Sings: Artistic Traditions of Canada's First Peoples)」に対する地元先住民のボイコットを受け、博物館と先住民に関する特別委員会(Task Force)が設けられた。その後、カナダ博物館協会(Canadian Museums Association:略称CMA)と先住民会議(Assembly of First Nations)は協同して、先住民資料の重要性の再認識、展示等への介入、先住民が利用する際の便宜、資料返還、先住民の研修などを進めるべきとの答申を出した(AFN & CMA 1992)。1987年にはカナダ博物館協会の会誌『Muse』で「The Emerging Indian Point of View」という特集が組まれており、88年以前から、過去のままのイメージで先住民文化を紹介する展示についての批判や、異文化を表象することの限界などが議論されていた。

現在は、上記の特別委員会の答申に従い、各館が内規を設けるなどして先住民との協力関係を築いている。

カナダあるいは北米における博物館と先住民文化に関する議論は、先の『Muse』および『Museum Anthropology』(American Anthropological Association/ Council for Museum Anthropology発行)に詳しいが、いずれも国内に所蔵している機関は少なく、日本ではあまり知られていないようである。これらのバックナンバーのなかからカナダの

先住民に関する記事をはじめ、訪問した博物館や図書館等で入手した文献類については、リストを作成してある。展示評価、資料返還 (Repatriation)、先住民の学芸員 (curator) への登用などに関する情報が得られる。

博物館について報告する前に、カナダにおける先住民の状況について簡単に触れておきたい。カナダの先住民人口は、2001年の民族別出身 (Ethnic Origins) に関するセンサスで北米インディアン (North American Indian) の数がおよそ100万人。BC州における同区分は17万5000人となっている (カナダ統計局ホームページ)。UBC人類学博物館のパンフレットにも、州内には196の先住民 (First Peoples) のコミュニティがあり人口は17万人を超える、と記されている (MOA at UBC 2000)。BC州の先住民人口は全国のその2割弱になる。

カナダ博物館協会とカナダ遺産情報ネットワーク (Canadian Heritage Information Network: 略称CHIN) はインターネット上で博物館・関連研究所名簿 (Official Directory of Museums and Related Institutions/2003年版となっているが、随時更新されている) を公開しており、1767件の機関がリストアップされている (2006年1月現在)。また、ヴァーチャル・ミュージアム・オブ・カナダ (Virtual Museum of Canada) はCHINのメンバーのなかから1140の機関がエントリーしている (同06年1月現在)。カナダ博物館協会の名簿は、館 (機関) 名、地域、設置者・分野別のカテゴリーから検索すると、それぞれの施設の基本データを見ることができ、ホームページを持っている館へのリンクがなされている。カテゴリーには「コミュニティ/地方 (Community / Regional)」、「州立 (Provincial)」、「国立 (National)」の3つの設置者別と、25の分野別があり、一つの館でいくつかの分野にまたがるものもある。当初、これらのカテゴリーの中から先住民に関係すると思われる、「歴史・考古学・人類学・民族学 (Human History, Archaeology, Anthropology or Ethnology)」や「家事・先住民文化センター (Keeping House or Native Culture Centre)」を検索して、先住民関連博物館の全容を把握しようとしたが、結果の一覧には明らかに先住民文化を展示している主要な館が含まれていないことや分類自体が曖昧であると考えられ、そのまま引用することはできないと判断した。

BC州博物館協会 (British Columbia Museums Association) の名簿 (上記の名簿とリンク) によれば、BC州内には359施設があるので、カナダ国内の約4分の1を占めることになる。BC州の先住民文化に関するガイドブックや (Halliday 2000; Kramer 1998)、先住民名鑑 (“First Nations Tribal Directory”) (Keith 1997) から関連施設は拾っていくと数十を数え、うち先住民が運営するギャラリー、文化センター、博物館は約30である。

カナダ全体においては、上記のデータベース等から収蔵品の内容を見、独自のホームページを持っている館はその内容を確認する作業をとおして、先住民文化が展示の主眼となっている館が2割程度、美術品・工芸品などを所蔵し、副次的あるいはテンポラリーに

展示している館は多く見積もって半数程度と推測できる。先住民自身が運営する博物館・文化センター等は、カナダ全体でおそらく1割に満たない100館前後ではないかと考えている。

3. 実際に訪問した博物館等施設

2002年8～9月および、2004年9～10月に訪問したのは、BC州のバンクーバー、ビクトリア、ダンカン、ナナイモ、キャンベルリバー、アラート・ベイ等、およびオンタリオ州のオタワ、トロント、ケベック州ガティノー（旧ハル）の以下の館である。

このうち、ロイヤル・ブリティッシュ・コロンビア博物館 (Royal British Columbia Museum)、ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館 (Museum of Anthropology at University of British Columbia)、ウミスタ文化センター (U'mista Culture Centre)、国立文明博物館 (Canadian Museum of Civilization: CMC) については、別稿でも紹介している (齋藤 2006)。

以下に博物館の概要を挙げておく。これらの館では、関連する出版物の収集をはじめ、可能な限り展示室の撮影、職員へのインタビュー、収蔵庫の閲覧等を行なった。

- ブリティッシュ・コロンビア大学人類学博物館 Museum of Anthropology at the University of British Columbia : MOA at UBC (バンクーバー)
1947年設立、1949年開館、1976年移転・リニューアルオープン
世界の民族資料35,000点、考古資料200,000点を収蔵 (14,000点を収蔵展示)。
儀礼具中心に展示。生活用具は主に収蔵展示。野外に家屋とトーテムポールを展示。
特別展・企画展で現在の様子などを紹介。
2002年からリニューアル・プロジェクト進行中 (調査や研究のために来館する先住民を受け入れるための施設整備、資料情報のデータベース化・ネットワーク化・公開等)。
観覧者数は年間約15万人前後。
- ロイヤル・ブリティッシュ・コロンビア博物館 Royal British Columbia Museum (ビクトリア)
1886年設立、1968年現在の場所に移転、1996年にImax Theatre増設
自然史・歴史に関する10,000,000点以上の資料を収蔵。
First Peoples Galleryは撮影禁止。接触以前と以後の変化を軸に、生業と儀礼を紹介。
ロングハウスやジオラマ、模型、大判写真パネル、音声による解説 (伝説) と照明が連動した仮面の展示など、大掛かりな造作も多い。
2002年常設展示として “Nisgaa: People of the Nass River” 増設。ニシュガ協定に従

い、資料変換を行っていることも展示。

隣接してサンダーバード公園があり、ロングハウス（工房としても利用）とトーテムポールが建てられている。

年間の観覧者数は40～50万人

- クウツウン文化・会議センターQuw'utsun' Cultural and Conference Centre (ダンカン)

先住民による運営。野外博物館の体を成している。展示棟のほか、映像ホール、ショップを兼ねたギャラリー、ワークショップや会議を行える研修棟、アトリエ、レストランなどがある。

ガイドツアーを行っており、パンフレットも7ヶ国語を用意。

ホームページも充実。

年間来場者は約4万5千人。

- ナナイモ博物館Nanaimo District Museum (ナナイモ)

1967年開館。

小規模館だが、1階入口すぐにFirst Nationsの展示コーナーがあり、内容も充実。

子どもたちへの教育普及活動を盛んに行っている。

分館のバスチオン (Bastionハドソン湾会社の事務所兼交易所/1853年設置) の展示も興味深い (夏季のみ開館)。

- キャンベル・リバー博物館Museum at Campbell River (キャンベル・リバー)

1994年リニューアルオープン。

入口すぐにFirst Nationsの展示。撮影禁止。地元の先住民から伝説を紹介することに了承を得て、シアターを設置。古老の語りに合わせて、仮面（地元アーティストによって新しく製作されたもの）がライトアップされて物語を紹介する方式はロイヤルB.C.博物館と同様のものであり、展示の目玉となっている。

屋外に有用植物が植栽され、解説パネルが設置されている。

館長、キュレーター、コレクションマネージャーもいる中規模館。

アーカイブズも併設。

年間の観覧者は2～3万人。

- ウミスタ文化センターU'mista Culture Centre (アラート・ベイ)

1980年開館。先住民による運営。

民族資料約800点。国内外から返還された資料は「ポトラッチ・コレクション」として

奥まったホールに展示。撮影禁止。

年間の来館者は約10,000人。

- 国立文明博物館Canadian Museum of Civilization (ガティノー)

1989年開館。

1階はグランドホールと名づけられ、北西海岸First Nationsの住居6軒を復元、内部に各民族集団に特徴的なものなどを展示。新しい要素も随時付け加えている。

2003年ファースト・ピープルズ・ホール (First Peoples Hall) オープン。北西海岸を除くイヌイトや他のファース・ネーションズ、メティスをも含んだ先住民の文化を紹介。

先住民キュレーターを中心に企画した特別展が開催されているほか、先住民のインターンシップも導入されている。

最近の年間来館者数は約130万人。

上記のほかに訪問・視察を行った博物館等は以下のとおりである。

バンクーバー海事博物館Vancouver Maritime Museum、バンクーバー博物館Vancouver Museum、スタンレー公園Stanley Park (以上バンクーバー)、キャピラノ吊橋Capilano Suspension Bridge (Totem Park) (北バンクーバー)、シドニー博物館Sidney Museum (シドニー)、アルバーニ渓谷博物館Alberni Valley Museum (ポート・アルバーニ)、コートナイ博物館Courtney and District Museum (コートナイ)、ポート・ハーディ博物館Port Hardy Museum (ポート・ハーディ)、国立自然博物館Canadian Museum of Nature、国立美術館National Gallery of Canada (以上オタワ)、バータ靴博物館Bata Shoe Museum、ロイヤル・オンタリオ博物館Royal Ontario Museum (以上トロント)

4. 先住民に関連した博物館の現状と課題

先述のように博物館を訪ね、文献等を収集したなかで、把握できた現状や課題についていくつか記しておきたい。

展示室の撮影を禁止する館が、ロイヤルBC博物館、キャンベル・リバー博物館、ウミスタ文化センターなどいくつかあった。理由は微妙に違っているようであり、展示される側の肖像権・著作権等に配慮したものである。出版物にせず自らの研究のためのみに用いるという条件でも、許可されない館があった。一方、国立文明博物館やUBC人類学博物館のように、出版等への利用でなければ、断らずに撮影できる館もある。展示資料の以前の所有者(の子孫)や製作者である先住民との間で合意が形成されており、個人的な利用については問題がないとする姿勢をとっているのである。各館によって事情は異なり、撮

影を認めるべき方向に進むのが良いとは一概に言えないが、展示および資料の著作権、肖像権、所有権に関する動向について、注目していきたいと考える。

また、博物館と先住民が協同で展示の企画等にあたる場合、誰をそのメンバーとするのかという問題に始まり、それぞれの意図をどのように形にしていくかは、簡単なことではない。国立文明博物館の先住民展示ホール (First Peoples Hall) の構想から公開までは10年以上の歳月を要し、その間、展示諮問委員会の委員長の交代などが繰り返された。広範な地域の事情の異なる集団の意見をまとめるのは困難であり、先住民側メンバーに博物館の経験者が少なかったことも理由の一つであるという (ウェブスター 2003)。委員会 の在り方について他館の具体的な事例を知ることは、よりよい協同企画・運営を目指す博物館にとって、得るべき点が多いだろう。

先住民自身が運営する博物館や文化センターは増えつつあり、国立文明博物館やUBC人類学博物館、ロイヤルBC博物館などでは、先住民の若者を対象とした研修も行なわれている。その成果は、新たな施設づくりや活動の振興のために公開もされている (The Internship Group 2001-2002 2002)。ただ、運営が順調な施設ばかりではなく、資金や人的な問題で休館中のクワギウルス博物館 (Kwagiulth Museum) のような例もある。貴重な資料が継続して保管され活用されるために、個々の館の努力だけではなく、サポートをする態勢も重要であろう。

5. まとめに代えて

以上のとおり、カナダの北西海岸先住民を対象とする博物館調査の概略を記した。本調査に基づく報告は、日本文化人類学会第39回研究大会および当館の第20回北方民族文化シンポジウムでも行った。

4年にわたる科研費の調査期間をまもなく終え、報告書も刊行される予定であるが、筆者の力不足で当初の研究計画や目的にはまだ達していないことを承知している。収集してきた情報や文献類も十分に活用したとは言いがたい。しかし、カナダの博物館における先住民との共同活動や異文化展示の事例は、筆者自身をはじめ、他の博物館においても学ぶべき点が多いと考える。日本でも最近、博物館 (大きくいえばメディア) と先住民 (文化の担い手たち) を結ぶ方法について、関係者の間で模索されつつある (飯田 2003; 竹沢 2004)。今後もカナダの博物館の動向に注目しつつ、日本での応用も検討していきたい。本報告は覚え書き程度のものであるが、関心を持つ方がいらっしゃれば、意見交換や情報・資料の提供に応じたい。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、調査の機会を与えてくださり、指導・助言・資料提供等をいただいた放送大学教授のスチュアート ヘンリ（本多俊和）先生はじめ、メンバーの岸上伸啓、窪田幸子、大村敬一、室淳子の各氏および、ここには書ききれず大変恐縮ながら、調査にご協力くださった各博物館・関係機関等の皆様に記して感謝申し上げたい。

参考文献

飯田卓（編）

2003 「特集 マスメディア社会に向き合う人類学」『民博通信』102:1-17

2005 「民族誌における対話の可能性」飯田卓・原知章編『電子メディアを飼いならすー異文化を橋渡すフィールド研究の視座』pp.252 せりか書房：東京

ウェブスター、グロリア

2003 「先住民族と博物館」（パネル・ディスカッション）大塚和義・吉田憲司編「再生する先住民文化ー先住民族と博物館」報告書（アイヌ文化振興法制定5周年記念フォーラム）pp.43-74国立民族学博物館

齋藤玲子

2006（印刷中） 「カナダ北西海岸先住民と北海道アイヌの事例にみる博物館展示の変遷」『第20回北方民族文化シンポジウム報告書』pp.75-79 財団法人北方文化振興協会

竹沢尚一郎（編）

2004 「特集 ミュージアムと民族学をつなぐもの」『民博通信』104:1-17

本多俊和（スチュアート ヘンリ）

2005 「メディアと先住民：表象する側とされる側」本多俊和・大村敬一・葛野浩昭編『文化人類学研究ー先住民の世界ー』pp.211-223 放送大学教育振興会：東京

溝上智恵子

2003 『ミュージアムの政治学 カナダの多文化主義と国民文化』 東海大学出版会

Assembly of First Nations and The Canadian Museums Association

1992 Task Force Report on Museums and First Peoples: Jointly sponsored by Assembly of First Nations and the Canadian Museums Association. *Museum Anthropology* 16(2): 12-20

Canadian Museum of Civilization

2002 *Canadian Museum of Civilization*. Hull

Clifford, James

1997 Four Northwest Coast Museums: Travel Reflections. *Routes: Travel and*

Translation in the Late twentieth Century. Cambridge: Harvard University Press (毛利嘉孝ほか訳『ルーツ』月曜社)

Halliday, Jan and Gail Chehak

2000 *Native Peoples of the Northwest*. (A Traveler's Guide to Land, Art, and Culture. 2nd edition) Seattle: Sasquatch Books

Hawthorn, Audrey

1993 *A Labour of Love: The Making of the Museum of Anthropology, UBC The First Three Decades 1947-1976*. Vancouver: UBC Museum of Anthropology
(The) Internship Group 2001-2002(Tomic-Bagshaw, Jessica and Kerri McDonnell, Georgina Nicloux, Shirley Muldon, Claudette Rocan)

2002 Establishing a Cultural Centre. Website of Canadian Museum of Civilization, Aboriginal Training Program (<http://www.civilization.ca/cmc/at/at02/at02me1e.html>)

Keith, Cydney ed.

1997 *First Nations Tribal Directory* (3rd edition). Winnipeg: Naylor Communications

Kramer, Pat

1998 *Native Sites in Western Canada*. Vancouver: Altitude

Laforet, Andrea

1992 *The Book of the Grand Hall*. Hull: Canadian Museum of Civilization

MOA at UBC

2000 *Museum of Anthropology Gallery Guide*. Museum of Anthropology at the University of British Columbia

U'mista Culture Centre

2005 *T'sit'sak'alam*(News). Fall/Winter 2005. U'mista Cultural Society

Wilson, Thomas H. and Georges Erasmus, David W. Penne

1992 Museums and First Peoples in Canada. *Museum Anthropology* 16(2): 6-11

参考にした主なウェブサイト/Web Site

Canadian Museum of Civilization

<http://www.civilization.ca/>

Museum of Anthropology at University of British Columbia

<http://www.moa.ubc.ca/>

Official Directory of Museums and Related Institutions

<http://www.museums.ca/Cma1/About/Links/directory2003/directoryletter2003.htm>

齋藤 カナダ北西海岸先住民関連の博物館の概況

Quw'utsun' Cultural and Conference Centre

<http://www.quwutsun.ca/index.html>

Royal British Columbia Museum

<http://www.royalbcmuseum.bc.ca/>

Statistics Canada (カナダ統計局)

<http://www40.statcan.ca/>

U'mista Culture Centre

<http://www.umista.org/index.asp>